

# 社会価値創造のための科学技術・イノベーション

2019年8月23日

日本電気株式会社

NECフェロー

江村 克己

# \ Orchestrating a brighter world

未来に向かい、人が生きる、豊かに生きるために欠かせないもの。  
それは「安全」「安心」「効率」「公平」という価値が実現された社会です。

NECは、ネットワーク技術とコンピューティング技術をあわせ持つ  
類のないインテグレーターとしてリーダーシップを発揮し、  
卓越した技術とさまざまな知見やアイデアを融合することで、  
世界の国々や地域の人々と協奏しながら、  
明るく希望に満ちた暮らしと社会を実現し、未来につなげていきます。

## グローバルな社会課題への意識の広がり

- 深刻化する気候変動問題、SDGs/Society5.0

## 地政学的な緊張の高まり・不確実化する社会情勢

- テクノ地政学

## テクノロジーの加速的進化

- データ駆動型社会、AI、地球大のネットワークの進展



SDGs

## 社会課題解決型のソリューション提供

- モノからコト、サービスへ
- 個別最適から全体最適に
- デザイン経営

## 人間中心社会の構築

- 生活・セーフティ基盤の構築 → 豊かさの実現



# 社会価値創造プロセスと研究開発のアプローチ

価値や魅力  
をつくる



解くべき課題、社会価値創造視点からのアプローチ  
現場実証によるピボットで柔軟にターゲットを変更

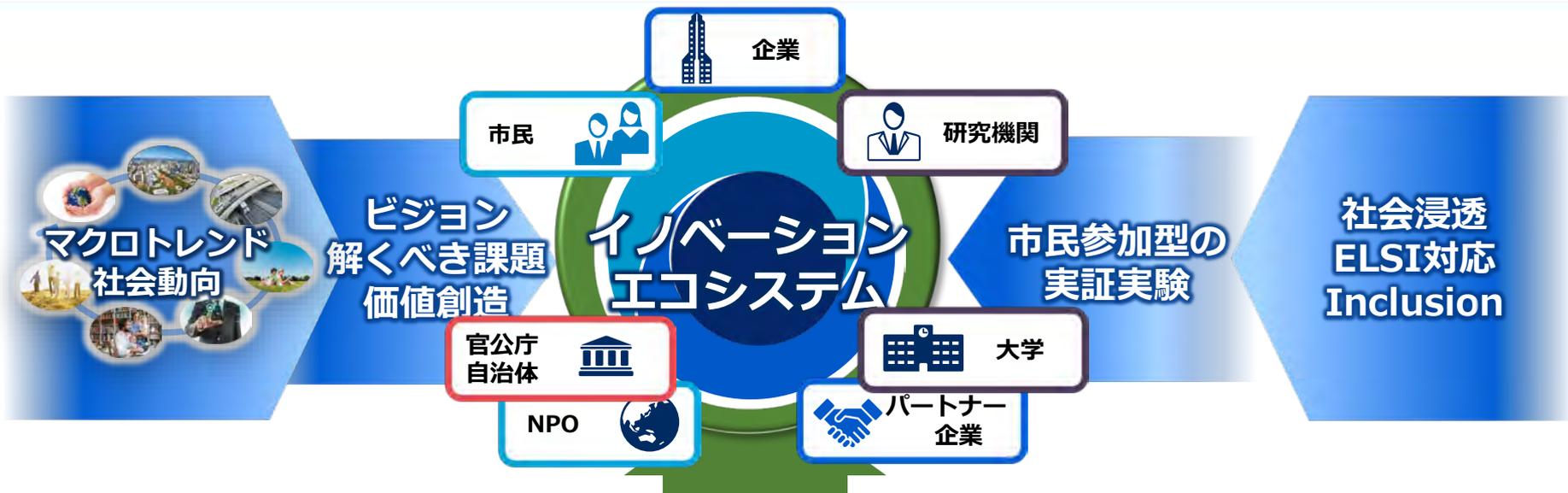


達成すべき機能・性能を明確化して計画的に実行  
する従来型のリニアモデルによるアプローチ



性能を  
上げる

# 価値創造のためのイノベーションプロセス



## イノベーションを成功に導く視点

### デザイン指向

- ・社会システムデザイン
- ・アーキテクチャ

### 競争力のあるテクノロジー

- ・強みを活かすビジネスモデル
- ・大学、ベンチャーの活用

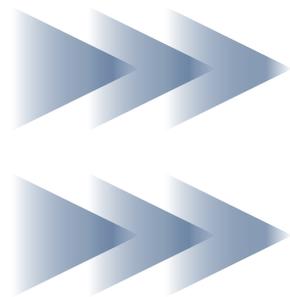
### 社会受容性

- ・コンセンサス会議
- ・制度整備、保険…

# イノベーション創出のパラダイムシフト

## 解くべき課題の特徴

- 問題の複雑化
  - 社会課題への挑戦
  - 多種多様なトレードオフ
- 早まる変化のスピード
- POCと社会浸透のギャップ



## 対策

- オープンイノベーションの進化
  - エコシステムの構築
  - ユーザー・市民の参画
- 社会実装の加速
- 制度整備・改革を同時に推進

## 従来の研究開発プロセス



Linear Model  
(テクノロジーアウト)



## これからの研究開発プロセス



Quadruple Helix Model

産官学民

# (参考) 欧州が進めるオープンイノベーション2.0

- ◆ 2013年に欧州委員会が宣言した新たなオープンイノベーションのパラダイム
- ◆ “ユーザー” が主要なプレイヤーとなる (Quadruple Helix Model : 産官学民)
- ◆ Horizon2020では、社会へのインパクト創出を目的としてオープンイノベーション2.0を実践 (評価基準を定義)



オープンイノベーション2.0の考え方  
「Quadruple Helix Model」



- オープンイノベーションの観点でPJを評価
- Quadruple Helix Modelの実践
  - プラットフォームの構築
  - 中小企業・スタートアップへの直接的貢献

# NECの事例：大型産学連携

基礎研究から社会実装までのビジョンや課題を共有



NEC・東京大学フューチャーAI研究・教育戦略パートナーシップ協定

Orchestrating a brighter world

NEC



東京大学  
THE UNIVERSITY OF TOKYO

# 社会への浸透を意識した連携の推進

人文社会系の知見を活かし、AIの社会受容性を高める具体策を提言する活動を、大学・公的研究機関と実施

